

# 令和元年度における業務実績報告書

抜 粋

令和 2 年 6 月

公立大学法人和歌山県立医科大学

## 目 次

- 法人の自己評価に対し「2名」の委員が異なる評価をつけた項目（3項目）  
..... P 1
  
- 法人の自己評価に対し「1名」の委員が異なる評価をつけた項目（20項目）  
..... P 5

# ○ 法人の自己評価に対し「2名」の委員が異なる評価をつけた項目（3項目）

※令和元事業年度 業務実績報告書 17 ページ

## 第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

1 教育に関する目標を達成するための措置	自己評定	【S- <b>Ⓐ</b> -B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II- ) (III-51) (IV-1)】
	委員会評定	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II- ) (III- ) (IV- )】

中期計画 (総括評価の場合：中期目標)	年度計画 (総括評価の場合：中期計画)	年度計画の実施状況 (総括評価の場合：中期計画の達成状況)	自己 評価	委員 評価	委員会 評価																																									
大学院教育																																														
イ	<p><b>【博士課程・博士後期課程】</b> 博士課程・博士後期課程において、専門的知識や技術を活かし、地域医療や国際社会に貢献できる医療人及び本県の保健医療における指導的役割を担う人材を育成するため、高度先進的な研究内容の指導かつ講座の枠を超えた分野横断的な特別講義を実施するなどの教育を行う。</p>	<p>a 修士課程と共通の医科学研究法概論及び学内外の第一線で活躍する講師による各講座の枠を超えた高度先進的、分野横断的な特別講義を行う。</p> <p>また、大学院入学者の充足率が低いことから、多方面にわたり募集を行っている。(医学研究科)</p>	<p>共通講義及び学内外の第一線で活躍する講師による特別講義を実施し、高度先進的かつ分野横断的な知識を習得させた。 共通講義の実施回数：18回 特別講義の実施回数：19回</p> <p>また、大学院入学者確保のため、学内においては募集要項(博士・修士)を各医局に配付するとともに、医学研究科委員会等で各所属長に直接働きかけた。学外においては、博士課程の入学試験案内を全国の62国公立大学法人(医学部・歯学部)及び44私立大学に送付し、修士課程の試験案内は、県内82病院や10協会(医師会・病院協会・看護協会等)に、県外では近畿の129大学・専門学校等に対して送付して募集を図った。さらに、海外提携校19校に対して試験案内を行った。</p> <table border="1"> <tr><td></td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td></tr> <tr><td>定員</td><td>14名</td><td>14名</td><td>14名</td><td>14名</td></tr> <tr><td>受験者数</td><td>11名</td><td>11名</td><td>10名</td><td>8名</td></tr> <tr><td>入学者数</td><td>9名</td><td>9名</td><td>10名</td><td>7名</td></tr> </table> <p>※2年度は10月入学者を含まず(試験実施予定) (修士課程)</p> <table border="1"> <tr><td></td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td></tr> <tr><td>定員</td><td>42名</td><td>42名</td><td>42名</td><td>42名</td></tr> <tr><td>受験者数</td><td>31名</td><td>26名</td><td>31名</td><td>37名</td></tr> <tr><td>入学者数</td><td>28名</td><td>24名</td><td>28名</td><td>38名</td></tr> </table> <p>※2年度は10月入学者を含まず(試験実施予定) ※2年度入学者のうち1人は元年度の合格者</p>		29年度	30年度	元年度	2年度	定員	14名	14名	14名	14名	受験者数	11名	11名	10名	8名	入学者数	9名	9名	10名	7名		29年度	30年度	元年度	2年度	定員	42名	42名	42名	42名	受験者数	31名	26名	31名	37名	入学者数	28名	24名	28名	38名	III	IV  II	
	29年度	30年度	元年度	2年度																																										
定員	14名	14名	14名	14名																																										
受験者数	11名	11名	10名	8名																																										
入学者数	9名	9名	10名	7名																																										
	29年度	30年度	元年度	2年度																																										
定員	42名	42名	42名	42名																																										
受験者数	31名	26名	31名	37名																																										
入学者数	28名	24名	28名	38名																																										

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

3 診療に関する目標を達成するための措置	自己評定	【S-A-①-C-D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II-1) (III-28) (IV-2)】
	委員会評定	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II- ) (III- ) (IV- )】

(1) 診療の充実及び実践に関する目標を達成するための措置

中期計画 (総括評価の場合：中期目標)		年度計画 (総括評価の場合：中期計画)	年度計画の実施状況 (総括評価の場合：中期計画の達成状況)	自己 評価	委員 評価	委員会 評価
附属病院本院						
ア	<p><b>【先進的医療の推進】</b></p> <p>日本における臨床研究の拠点として、質の高い医療を提供するため、臨床研究中核病院への早期承認を目指す。</p>	<p>平成 31 年度中の臨床研究中核病院の承認を目指し、臨床研究センターを核とする総合的な研究支援体制を強化し、臨床研究実施件数の拡充を図るとともに、医師主導治験を含む治験を推進する。</p> <p>また、臨床研究センターが運営する本学附属病院を中心とした臨床研究ネットワーク (KiCS Network) を活用して県内外の医療機関と連携した治験の推進、ネットワーク参加施設の研究実施支援や研究者等の教育を行うことなどを通じて地域住民に先進的な医療を提供できる体制づくりを進める。</p>	<p>本学において実施される企業治験、医師主導治験、臨床研究等に対する総合的な支援を行うとともに、外部研究機関の臨床研究に対してモニタリング支援やデータマネジメントなど収集データの品質の維持・向上に対する支援を行った。</p> <p>また、臨床研究センターのホームページに参加募集中の治験情報の一覧を掲載するとともに、臨床研究センター治験管理部門の職員を患者支援センターに設置された相談窓口担当とし、院内外から治験に関する問合せ等に対して迅速かつ円滑に対応した。</p> <p>臨床研究ネットワーク (KiCS Network) を活用した治験の推進については、ネットワークに参画する医療機関と連携した被験者の紹介事例はなかったが、当該機関における研究活性化支援の一環として臨床研究に関する出前講義を実施した。</p> <p>さらに、ネットワーク参画医療機関を支援することにより、当該機関の医師が代表となる 3 件の特定臨床研究が開始された。</p> <p>なお、臨床研究中核病院の承認については、平成 31 年 3 月に厚生労働省に申請書類を提出し、同年 11 月に実地調査を受検したが、承認には至らなかった。</p> <p style="text-align: right;">〈臨床研究センター〉</p>	II	III	III

第5 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置

1 財務内容の健全化に関する目標を達成するための措置	自己評定	【S- <u>㊤</u> -B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II- ) (III-1) (IV- )】
	委員会評定	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II- ) (III- ) (IV- )】

中期計画 (総括評価の場合：中期目標)	年度計画 (総括評価の場合：中期計画)	年度計画の実施状況 (総括評価の場合：中期計画の達成状況)	自己 評価	委員 評価	委員会 評価									
<p><b>【健全な法人運営の実施】</b> 平成29年10月に策定した「経営改善計画」に基づき、附属病院の新外来患者数の増加、紀北分院の体制強化等による収入増加策や教職員の定数管理、医薬材料費の縮減等による経費抑制策に取り組み、将来の社会情勢の変化にも適切に対応できる強固な経営基盤を構築する。</p>	<p>「経営改善計画」について、前年度の実績等を踏まえた取組や見込等の更新を行うとともに、年度途中においても月次決算や年次決算見込み及び中期的な収支推計を分析することにより、その効果を検証し、取組内容の改善など着実な実行を図る。</p>	<p>前年度に引き続き、「経営改善計画」に基づく収入の増加や経費の抑制に取り組み、収支改善を図った。この際、平成30年度の取組実績や令和元年度診療報酬改定等の最新の状況を踏まえ、令和元年度以降の取組における数値目標等、改めて検討を行った。 また、月次決算等を分析し、随時進捗管理を実施した。</p> <p>この結果、令和元年度の経常利益は年度計画上の目標である2億円を上回る6.8億円となった。 また、借入金残高は45.6億円、病院部門の人件費率は40.7%となり目標を達成することができた。</p> <p>〈経営企画課〉</p>	III	IV  IV										
<p>数値</p> <p>経常利益（薬学部除く） 4億円（平成30年度～35年度平均）</p>	2億円	7.6億円  〈関連事項 第5 1〉	/											
<p>借入金残高 70億円（平成35年度末） ※経営改善計画（平成29年10月策定）を実施しない場合、77.7億円となる見込</p>	47.8億円	<p>45.6億円 （借入金の対象となる診療備品や病院の設備更新等の金額精査により、借入金残高の抑制を図っていく）。</p> <p>借入金残高の推移 （単位：億円）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>R1年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>借入金残高</td> <td>60.0</td> <td>61.1</td> <td>53.8</td> <td>45.6</td> </tr> </tbody> </table> <p>〈関連事項 第5 1〉</p>			28年度	29年度	30年度	R1年度	借入金残高	60.0	61.1	53.8	45.6	
	28年度	29年度	30年度	R1年度										
借入金残高	60.0	61.1	53.8	45.6										

	病院部門の人件費比率(人件費/経常収益) 43.6% (平成 35 年度) ※経営改善計画(平成 29 年 10 月策定)を実施しない場合、46.8%となる見込	43.3%	40.7%	(関連事項 第5 1)		
--	--	-------	-------	-------------	--	--

# ○ 法人の自己評価に対し「1名」の委員が異なる評価をつけた項目（20項目）

※令和元事業年度 業務実績報告書 4 ページ

## 第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

1 教育に関する目標を達成するための措置	自己評定	【S- <b>Ⓐ</b> -B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II- ) (III-51) (IV-1)】
	委員会評定	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II- ) (III- ) (IV- )】

### (1) 教育の内容及び成果に関する目標を達成するための措置

中期計画 (総括評価の場合：中期目標)	年度計画 (総括評価の場合：中期計画)	年度計画の実施状況 (総括評価の場合：中期計画の達成状況)	自己 評価	委員 評価	委員会 評価	
<b>共通</b>						
ウ	<p><b>【人材の獲得】</b> 本学の教育理念・入学選抜について大学説明会やオープンキャンパス等を通じ、積極的に広報活動を行い、資質の高い多様な人材の獲得に努める。</p> <p>また、医学部生に対しては、3年次の基礎配属を1年間通して実施するなど基礎医学教育の活性化を図るとともに、基礎配属において、大学院準備課程の登録学生を優先的に希望教室に配属する仕組みを構築するなど、同課程への学生の登録を促すことにより、大学院への進学者の増加に繋げる。</p>	<p>a 高校の進路指導部長等を対象とした大学説明会や県内高校の校長・教育委員会との情報交換会を開催する。また、オープンキャンパスの開催や予備校等の医学部説明会に参加し、受験生や保護者に対して積極的にPR活動を実施する。</p> <p>また、医学部では3年次の基礎配属で年間を通した基礎医学の実習を行い、大学院準備課程への登録を促し、大学院進学者の増加を図る。(医学部)</p>	<p>高校の進路指導部長等を対象とした医学部説明会を令和元年7月1日(月)に開催し、17校23名の参加があった。また、令和元年11月19日(火)に教育委員会及び県高等学校長会と令和元年11月27日(水)に私立高等学校長との懇談会を実施し、入学者選抜等について意見交換を行った。</p> <p>9月・10月・11月に受験生及びその保護者を対象とした予備校等が主催する医学部説明会等で本学の教育方針についての講演や、個別相談を行い、本学のPR活動を行った。個別相談件数(3回分)：74組92名</p> <p>オープンキャンパスについては、令和元年8月17日(土)に開催し、277名の学生が参加した。</p> <p>大学院準備課程の説明会を令和元年5月7日(火)に開催(参加24教室、参加学生約100名)。新たに3名の医学部生が登録し、現在34名。</p> <p>なお、令和2年度の博士課程への入学者数は38名(※)となり、前年度に比べ10名増加した。</p> <p>※入学定員の90%、過去5年同時期平均48%</p>	III	II	

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

1 教育に関する目標を達成するための措置	自己評定	【S- <u>Ⓐ</u> -B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II- ) (III-51) (IV-1)】
	委員会評定	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II- ) (III- ) (IV- )】

中期計画 (総括評価の場合：中期目標)	年度計画 (総括評価の場合：中期計画)	年度計画の実施状況 (総括評価の場合：中期計画の達成状況)	自己 評価	委員 評価	委員会 評価													
<b>学部教育</b>																		
イ	<p><b>【専門知識・技術の教授】</b></p> <p>総合的・専門的な知識及び技術を備え、それらを有効に活用できる高度医療人の育成を図る。</p> <p>医学部では、国際基準を満たす教育を実践するとともに、地域医療を担う意欲・使命感を持った医学研究者や医療人を育成し、本県の医療ニーズに応える。</p>	<p>a 1年次では教養セミナー(PBL形式)、4年次では臨床PBLと講義をハイブリッド形式で行い、臨床実習中においては、問題解決能力をつけるため、学生カルテの記載の充実を図る。3年次の基礎配属実習及び6年次の選択実習については、学外、海外の施設から選択を可能にする。</p> <p>また、地域医療の現状を理解させる取組として、地域医療に関する講義、早期体験実習、病棟実習及び県内各施設での体験実習を行う。</p> <p>さらに、英語教育を充実させるため、TOEFL受験を必修とし、TOEFL-ITPで470点以上を3年次終了までに獲得させるとともに、講義などにおいても積極的に英</p>	<p>1年次の教養セミナーでは、教養科目と関連した内容について能動的な教育を体験し、その後の修学方法の基礎が養われた。</p> <p>4年次の臨床PBLでは、症例について疾患の診断の手順や考え方を学ぶとともに、疾患の理解から臨床推論に至る過程を体験し、臨床実習への準備教育となるとともに、臨床実習中に問題解決能力をつけるため、学生カルテの記載の直接指導を行った。</p> <p>6年次の選択制臨床実習については引き続き、学外、海外の施設から選択を可能とし、海外での施設を含め18施設で臨床実習を行い、より実際の臨床に近い実習を行うことが可能となった。</p> <p>英語教育については、TOEFL受験を必修とし、TOEFL-ITPで470点以上を3年次終了までに獲得させている。</p> <p>PBL(セミナー)テーマ数と期間(医学部)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年次 教養セミナー</td> <td>8テーマ (前期) 11テーマ (後期)</td> <td>8テーマ (前期) 11テーマ (後期)</td> <td>8テーマ (前期) 10テーマ (後期)</td> </tr> <tr> <td>4年次 臨床PBL(TBL)</td> <td>9科目</td> <td>9科目</td> <td>9科目</td> </tr> </tbody> </table> <p>TBL=Team based learning ※4年次については科目数</p> <p>医学部臨床実習</p>		29年度	30年度	元年度	1年次 教養セミナー	8テーマ (前期) 11テーマ (後期)	8テーマ (前期) 11テーマ (後期)	8テーマ (前期) 10テーマ (後期)	4年次 臨床PBL(TBL)	9科目	9科目	9科目	III	II	
	29年度	30年度	元年度															
1年次 教養セミナー	8テーマ (前期) 11テーマ (後期)	8テーマ (前期) 11テーマ (後期)	8テーマ (前期) 10テーマ (後期)															
4年次 臨床PBL(TBL)	9科目	9科目	9科目															

語による指導を行う。  
 また、CBT の合否判定基準を全国医学部長病院長会議が提示する推奨最低合格ライン IRT:359 以上から引き上げ、学生の医学知識の向上を促す。(医学部)

	29 年度	30 年度	元年度
期間	56 週	59 週	62 週
人数	201 名	204 名	246 名
施設数	14 病院 55 診療科	15 病院 49 診療科	14 病院 53 診療科
病院名	紀北分院 橋本市民病院 公立那賀病院 和歌山労災病院 院 済生会和歌山病院 海南医療センター 有田市立病院 国保日高総合病院 国立和歌山病院 院 紀南病院 南和歌山医療センター 国保すさみ病院 院 那智勝浦町立温泉病院 新宮市立医療センター	紀北分院 橋本市民病院 公立那賀病院 和歌山労災病院 院 済生会和歌山病院 海南医療センター 有田市立病院 国保日高総合病院 国立和歌山病院 院 紀南病院 南和歌山医療センター 国保すさみ病院 院 那智勝浦町立温泉病院 新宮市立医療センター こころの医療センター	橋本市民病院 公立那賀病院 和歌山労災病院 院 済生会和歌山病院 海南医療センター 有田市立病院 国保日高総合病院 国立和歌山病院 院 紀南病院 南和歌山医療センター 国保すさみ病院 院 那智勝浦町立温泉病院 新宮市立医療センター こころの医療センター

元年度基礎配属海外実習施設：3 施設（3 年次）

トロント大学（カナダ）	5 名
アルバータ大学（カナダ）	1 名
ナンヤン理工大学（シンガポール）	1 名

元年度海外実習施設：4 施設（6 年次）

チャールズ大学（チェコ）	2 名
コンケン大学（タイ）	2 名
バーモント大学（アメリカ）	2 名
ハワイ大学（アメリカ）	1 名

地域実習の実施設数及び実習者数は、P. 8 ア a 参照

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

1 教育に関する目標を達成するための措置	自己評定	【S- <b>Ⓐ</b> -B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II- ) (III-51) (IV-1)】
	委員会評定	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II- ) (III- ) (IV- )】

中期計画 (総括評価の場合：中期目標)		年度計画 (総括評価の場合：中期計画)	年度計画の実施状況 (総括評価の場合：中期計画の達成状況)	自己 評価	委員 評価	委員会 評価
学部教育						
オ	<b>【国家試験】</b> 新卒者の国家試験合格率を向上させるため、学習支援を充実させるほか、医学部において、学生に対する卒業試験後の個別支援を行うとともに、卒業試験問題の検証・改善を図り、全国上位の合格率を目指す。	b 高い国家試験合格率を維持するため、担任及びゼミ担当教員を中心とした学習支援を行う。(保健看護学部)	看護師、保健師ともに引き続き合格率100%を目指し、学年担任及びゼミ担当教員を中心として学習支援を行った。 合格率：看護師100%、保健師100% (全国大学合格率：看護師95.0%、保健師93.4%)	III	IV	
数値	新卒者の看護師国家試験合格率 100%	100%	令和元年度実績：100% (全国大学合格率：95.0%) (関連事項 オb)	/		
	新卒者の保健師国家試験合格率 全員合格	全員合格	令和元年度実績：100% (全国大学合格率：93.4%) (関連事項 オb)			

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

1 教育に関する目標を達成するための措置	自己評定	【S- <b>Ⓐ</b> -B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II- ) (III-51) (IV-1)】
	委員会評定	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II- ) (III- ) (IV- )】

中期計画 (総括評価の場合：中期目標)		年度計画 (総括評価の場合：中期計画)	年度計画の実施状況 (総括評価の場合：中期計画の達成状況)	自己 評価	委員 評価	委員会 評価
学部教育						
キ	<p><b>【実習】</b> 医療人として求められる総合的能力を育成するため、学内外の実習教育体制を整備するとともに、早期から地域医療に対する関心と理解を深めるため、地域実習を実施する。</p> <p>医学部においては、卒前・卒後を有機的に結合した診療参加型臨床実習を実施する。</p>	<p>a 教育の方法、実習形態の変化に適応した教務分担を行うとともに、学外の病院においても臨床教授等の称号を付与し指導体制の更なる充実を図る。</p> <p>救急・集中治療医学、紀北分院、学外病院実習において総合的臨床能力を育成するとともに、臨床実習において臨床推論を高めさせる教育体系を継続する。</p> <p>臨床実習における基本的臨床技能を身に付けさせるため、スキルスラボに臨床実習用備品を整備する。</p> <p>また、臨床実習開始前に学生の能力と適性を厳正に評価し、スチューデントドクターの称号を授与するとともに、診療参加型臨床実習を継続する。(医学部)</p>	<p>臨床実習期間を 59 週から 62 週へ延長したことに伴い、学内外の実習期間を変更し、受け入れ施設・部門の調整を行った。</p> <p>学外の 20 医療機関において 45 名の臨床教授等を任命し、指導体制の充実を図った。</p> <p>救急・集中治療部での臨床実習では、救急現場への理解を深めるため、海南市消防本部で 24 時間待機し、すべての救急出動に同乗して現場見学を行わせた。</p> <p>※ 臨床実習の学外実施施設は、P. 9 イ a 参照</p> <p>スキルスラボでは、本学の学生や教職員の基本的臨床技能を向上させるため、「血圧測定シミュレータ」等を新規で購入した。</p> <p>臨床実習を行う資格を認定された医学部の 5 年生 93 名に対し、平成 31 年 4 月 11 日に「Student Doctor 称号授与式」において、認定証と白衣を授与した。</p>	III	IV	

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

2 研究に関する目標を達成するための措置	自己評定	【S-A-B- <b>◎</b> -D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II-3) (III-7) (IV- )】
	委員会評定	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II- ) (III- ) (IV- )】

(1) 研究水準及び成果等に関する目標を達成するための措置

中期計画 (総括評価の場合：中期目標)	年度計画 (総括評価の場合：中期計画)	年度計画の実施状況 (総括評価の場合：中期計画の達成状況)	自己 評価	委員 評価	委員会 評価																													
<p>ア</p> <p>【研究活動】 がんや認知症に関する研究をはじめとした、和歌山県で重点的に取り組まなければならない分野において、医の倫理に基づき、質の高い臨床研究や先進的な基礎研究を行うとともに、独創的研究に取り組む。</p>	<p>先端医学研究所を核に先進的な研究を行うとともに、臨床研究センターを活用しながら、質の高い臨床研究を推進する。</p>	<p>先端医学研究所に、高齢化に伴い増加が予想される疾病であるがん、感染症、循環器疾患などの予防、診断、原因解明を行う新設部門として、「分子病態解析研究部」を令和2年1月に開設し、研究実施体制の整備を進めた。 〈研究推進課〉</p> <p>臨床研究センターにおいてプロトコル作成、データマネジメント、統計解析のほか、モニタリングや監査を通じた品質管理、研究実施のためのセミナー開催等の総合的な研究支援を行った。 また、兼務医師を通じた研究課題の掘り起こしを実施するとともに、14診療科36件の新規臨床研究に関与し、5診療科6件の特定臨床研究の開始を支援した。</p> <p>各種セミナー実施実績（外部参加者含む）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">30年度</th> <th colspan="2">元年度</th> </tr> <tr> <th>開催回数</th> <th>参加人数</th> <th>開催回数</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>臨床研究セミナー</td> <td>8</td> <td>1099</td> <td>13</td> <td>1519</td> </tr> <tr> <td>医学統計セミナー</td> <td>5</td> <td>126</td> <td>9</td> <td>202</td> </tr> <tr> <td>研究者向けセミナー</td> <td>6</td> <td>453</td> <td>4</td> <td>306</td> </tr> <tr> <td>臨床研究審査委員会委員等に対するセミナー</td> <td>3</td> <td>40</td> <td>2</td> <td>32</td> </tr> </tbody> </table> <p>〈臨床研究センター〉</p>		30年度		元年度		開催回数	参加人数	開催回数	参加人数	臨床研究セミナー	8	1099	13	1519	医学統計セミナー	5	126	9	202	研究者向けセミナー	6	453	4	306	臨床研究審査委員会委員等に対するセミナー	3	40	2	32	III	IV	
	30年度			元年度																														
	開催回数	参加人数	開催回数	参加人数																														
臨床研究セミナー	8	1099	13	1519																														
医学統計セミナー	5	126	9	202																														
研究者向けセミナー	6	453	4	306																														
臨床研究審査委員会委員等に対するセミナー	3	40	2	32																														

数値	医師主導治験件数(過去3年間) 4件以上/3年 又は 医薬品・医療機器等を用い、 介入・侵襲を伴う臨床研究件 数(過去3年間) 80件以上/3年 ※臨床研究中核病院承認要 件	4件以上/3年 又は 80件以上/3年	医師主導治験4件実施中。 治験名 標準療法不応進行膵癌に対するS-1併 用WT1ペプチドパルス樹状細胞 (TLP0-001)の安全性・有効性を検討 する第Ⅲ相治験 転移性膵癌に対する新規WT1ペプチド ワクチン療法の第Ⅰ相医師主導治験 治療抵抗性小細胞肺癌に対するペム ブロリズマブ+アムルビシンの第Ⅱ相 試験 EGFR-TKIに不応となったT790M陽性、 進行・再発配線癌を対象としたオンメ ルチニブ+ラムシルマブの第Ⅰb相試 験 〈関連事項 ア〉			
	外部の特定臨床研究に対す る支援件数(過去1年間) 15件以上/年 ※臨床研究中核病院承認要 件	15件以上/年	令和元年度 84件(30年度 47件) 〈関連事項 ア〉			
	共同研究・受託研究の契約件 数 平成28年度比15%増(平成 35年度)	68件	71件(令和2年3月末) 〈関連事項 ア〉			
	治験実施症例件数 毎年10%増	毎年10%増	平成30年度実績138件(うち、新規エントリー分39件) 令和元年度実績167件(うち、新規エントリー分66件) 〈関連事項 ア〉			

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

2 研究に関する目標を達成するための措置	自己評定	【S-A-B- <b>◎</b> -D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II-3) (III-7) (IV- )】
	委員会評定	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II- ) (III- ) (IV- )】

(1) 研究水準及び成果等に関する目標を達成するための措置

中期計画 (総括評価の場合：中期目標)	年度計画 (総括評価の場合：中期計画)	年度計画の実施状況 (総括評価の場合：中期計画の達成状況)	自己 評価	委員 評価	委員会 評価																																
ウ	<p>【学会発表等】</p> <p>学会での発表を通じて学外から研究活動の評価を受け、研究活動の質の向上を図る。</p>	<p>研究活動の活性化を図り、国内外の学会での発表を促進する。</p> <p>優れた学術研究を行っている研究者に助成を行い、研究活動の活性化を図り、学内発表を実施し、国内外の学会での発表を促進した。</p> <p>○特定研究助成プロジェクト（医師主導治験除く）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>R1年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>応募数</td> <td>9</td> <td>7</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>採択数</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>助成額</td> <td>15,000千円</td> <td>15,000千円</td> <td>19,990千円</td> </tr> </tbody> </table> <p>[令和元年度採択事業]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単一遺伝子疾患モデルで探るプロテアソーム異常による炎症病態の解明（皮膚科 准教授 金澤伸雄）</li> <li>・TRPチャンネルシグナルネットワークと生体反応（眼科 講師 岩西宏樹）</li> <li>・タンパク質凝集から見る新たな疾患の側面－卵巣癌から胎盤形成不全まで－（生化学 講師 西辻和親）</li> <li>・母子保健・学校保健情報の標準化とデータリンケージを可能とするプラットフォームの開発 ～県内市町の既存の健康情報の縦断データ化と比較可能性を担保した地域診断システム～（地域医療センター 准教授 北野尚美）</li> </ul> <p>○若手研究支援助成</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>R1年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>応募数</td> <td>10</td> <td>11</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>採択数</td> <td>8</td> <td>11</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>助成額</td> <td>6,400千円</td> <td>8,800千円</td> <td>10,250千円</td> </tr> </tbody> </table>	年度	29年度	30年度	R1年度	応募数	9	7	8	採択数	4	4	4	助成額	15,000千円	15,000千円	19,990千円	年度	29年度	30年度	R1年度	応募数	10	11	13	採択数	8	11	13	助成額	6,400千円	8,800千円	10,250千円	III	II	
年度	29年度	30年度	R1年度																																		
応募数	9	7	8																																		
採択数	4	4	4																																		
助成額	15,000千円	15,000千円	19,990千円																																		
年度	29年度	30年度	R1年度																																		
応募数	10	11	13																																		
採択数	8	11	13																																		
助成額	6,400千円	8,800千円	10,250千円																																		

			<p>[令和元年度採択事業]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乾癬の痒みを担う脊髄内調節機構の解明（薬理学 講師 木口倫一）</li> <li>・ヒストンメチル基置換酵素 SETD8/KMT5A を標的とした新規分子標的治療薬の開発（第二外科 助教 速水晋也）</li> <li>・腎不全に伴う FGF23 誘導性心肥大の心筋特異的 FGFR4-KO マウスを用いた調査（腎臓内科 博士研究員 河上和紀）</li> <li>・水腎/水尿管の治療に向けての間葉細胞を標的とした再生医学的フロンティア研究（遺伝子制御学研究部 助教 日向泰樹）</li> <li>・経動脈的微細血管塞栓術による変形性関節症進行の抑制（整形外科 助教 下江隆司）</li> <li>・変形性股関節症患者 CT 画像における深層学習を用いた中臀筋自動描出技術の確立「CT 画像上の筋輪郭の描出という知的単純作業の代行に人工知能は有用か？」（整形外科 助教 西山大介）</li> <li>・大規模住民コホートの追跡による新たな疾患概念の確立-股関節・骨盤・脊椎症候群-（整形外科 客員研究員 原田悌志）</li> <li>・皮膚創傷治癒における TRPA1 から始まるシグナル伝達の解明（整形外科 学内助教 村田鎮優）</li> <li>・座位に着目した脊椎骨盤固定術後の股関節痛の発生メカニズムの解明（整形外科 学内助教 神前拓平）</li> <li>・角膜創傷治癒での実質細胞のヒアルロン酸合成酵素に着目した角膜癒着抑制戦略の樹立（眼科学 学内助教 松下愛）</li> <li>・心不全-血管関連の機序解明および治療への応用（循環器内科 博士研究員 寺口郁子）</li> <li>・メソトレキサートの脊髄後角での鎮痛メカニズム（整形外科 学内助教 太地良）</li> <li>・肺炎球菌の宿主間伝播を制御する宿主自然免疫機構の解明（耳鼻咽喉科・頭頸部外科 助教 河野正充）</li> </ul> <p style="text-align: right;">〈研究推進課〉</p>			
--	--	--	---	--	--	--

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

2 研究に関する目標を達成するための措置	自己評定	【S-A-B- <b>◎</b> -D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II-3) (III-7) (IV- )】
	委員会評定	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II- ) (III- ) (IV- )】

(2) 研究の実施体制等に関する目標を達成するための措置

中期計画 (総括評価の場合：中期目標)	年度計画 (総括評価の場合：中期計画)	年度計画の実施状況 (総括評価の場合：中期計画の達成状況)	自己 評価	委員 評価	委員会 評価
ア 【研究体制の整備】 「がん」「神経」など先端医学の分野において、研究組織整備及び研究者充実の観点から、体制の強化を図る。	先端医学研究所新設部門における研究実施体制を整備し、先端医学研究所組織の充実を図る。	先端医学研究所に、高齢化に伴い増加が予想される疾病であるがん、感染症、循環器疾患などの予防、診断、原因解明を行う新設部門として、「分子病態解析研究部」を令和2年1月に開設し、研究実施体制の整備を進めた。  (再掲) 〈研究推進課〉	Ⅲ	Ⅳ	

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

2 研究に関する目標を達成するための措置	自己評定	【S-A-B- <b>◎</b> -D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II-3) (III-7) (IV- )】
	委員会評定	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II- ) (III- ) (IV- )】

(2) 研究の実施体制等に関する目標を達成するための措置

中期計画 (総括評価の場合：中期目標)		年度計画 (総括評価の場合：中期計画)	年度計画の実施状況 (総括評価の場合：中期計画の達成状況)	自己 評価	委員 評価	委員会 評価
カ	<p><b>【外部資金の獲得】</b> 科学研究費助成事業等を含む競争的資金獲得のため、本学の研究者の応募を促進するとともにノウハウの提供による獲得支援を行う。また、企業との共同研究、受託研究及び治験等を推進・支援し、外部資金の獲得を図る。</p>	a 科学研究費の応募に係るセミナーの開催や応募書類の作成支援等科研費を申請する研究者に対する支援を行う。	<p>医学部及び保健看護学部において「How to get 科研費セミナー」と「若手研究者向け科研費セミナー」を開催し、科研費応募に係る事務手続きの説明とともに、科研費獲得のポイントや研究計画調書の書き方と獲得戦術について、研究活動活性化委員会委員とURAが指導を行った。加えて、URA及び研究活動活性化委員会委員が科研費応募書類の作成支援を実施した。(URA：60件、委員：5件) なお、URA作成の研究計画調書作成要領(若手研究/基盤研究)を学内ホームページで周知している。 〈研究推進課〉</p>	II	III	
数値	特許出願件数 25件／6年間累計	4件以上	3件(令和2年3月末) 〈関連事項 オ・カ a b〉	/		
	特許実施等件数 6件／6年間累計	1件以上	0件(令和2年3月末) 現在1件について交渉中 〈関連事項 オ・カ a b〉			
	競争的資金への教員応募率 100%(平成35年度)	88%以上	85% (令和元年度応募(令和2年度分)) 〈関連事項 オ・カ a b〉			
	競争的資金の獲得件数 平成29年度比15%増(平成35年度)	209件以上	194件 (平成30年度応募(令和元年度採択分)) 〈関連事項 オ・カ a b〉			
	競争的資金の獲得額 (科学研究費助成事業、AMED) 基準値の15%増(平成35年度)	397,000千円以上	306,215千円 (平成30年度応募(令和元年度採択分)) AMED採択なし 〈参考〉令和2年度採択分 JST CREST 1件 20,410千円(分子病態解析研究部) 〈関連事項 オ・カ a b〉			

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

3 診療に関する目標を達成するための措置	自己評定	【S-A-⑧-C-D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II-1) (III-28) (IV-2)】
	委員会評定	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II- ) (III- ) (IV- )】

(2) 教育機能等の充実にに関する目標を達成するための措置

中期計画 (総括評価の場合：中期目標)	年度計画 (総括評価の場合：中期計画)	年度計画の実施状況 (総括評価の場合：中期計画の達成状況)	自己評価	委員 評価	委員会 評価																								
<p>ア 【卒後の教育・研修】</p> <p>専門診療能力及び総合診療能力を有する医師を育成するため、専門医制度も踏まえ、臨床研修協力病院や臨床研修協力施設と連携し、卒後臨床研修プログラムの充実に努め、臨床研修医の受入に取り組むとともに、専攻医の専門教育の充実に努める。</p> <p>また、時代や地域のニーズに応じた知識や実践能力を養うため、看護の質の向上、学生の学習環境の整備、指導者の育成、学生及び看護職員のキャリア開発等を目標として、合同学習会、看護部継続教育研修及び実習に係る説明会を行うなど、保健看護学部と看護部の連携を強化していく。</p>	<p>a 医師法等改正に伴い、臨床研修に、外科、小児科、産婦人科、精神科が必修化され、一般外来を含むとなったため、2020年4月の施行に向け、臨床研修プログラムの見直しを行う。臨床研修の評価についても、項目追加やメディカルスタッフによる評価が必須となるため、インターネットを用いた評価システムの導入を検討する。</p> <p>和歌山研修ネットワークにより、本院を含む県内の基幹型病院で採用された臨床研修医の各病院間での相互受入を行うとともに、各病院間での相互受入調整機能を担うなど臨床研修医の受入に取り組み、専攻医の専門教育についても充実に努める。</p>	<p>必修化された診療科目の研修を円滑に実施するため、新たに精神科の中核病院である「県立こころの医療センター」など4施設の研修病院・研修施設を追加し、充実した臨床研修プログラムを作成した。その結果、令和2年採用研修医数(医科)が64名と前年度に比べ13名増加した。(平成31年度採用研修医数(医科)51名)</p> <p>また、令和2年4月より、臨床研修の評価が、インターネットを用いた評価システム(EPOC2)に移行するため、令和元年11月15日(金)に、「臨床研修の評価に係るインターネットを用いた評価システム等の活用について」の説明会を開催し、当院の関係部署や臨床研修施設に周知した。</p> <p>和歌山研修ネットワークにより、本院と県内の基幹型研修病院との間で研修医の相互受入を行った。</p> <p>他院からの受入 (名)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>和歌山ろうさい病院</td> <td>4</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>橋本市民病院</td> <td>2</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>和歌山生協病院</td> <td>1</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>日本赤十字社和歌山医療センター</td> <td>5</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>紀南病院</td> <td>2</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>南和歌山医療センター</td> <td>0</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>14</td> <td>31</td> </tr> </tbody> </table>		30年度	元年度	和歌山ろうさい病院	4	15	橋本市民病院	2	4	和歌山生協病院	1	4	日本赤十字社和歌山医療センター	5	3	紀南病院	2	3	南和歌山医療センター	0	2	合計	14	31	III	IV	
	30年度	元年度																											
和歌山ろうさい病院	4	15																											
橋本市民病院	2	4																											
和歌山生協病院	1	4																											
日本赤十字社和歌山医療センター	5	3																											
紀南病院	2	3																											
南和歌山医療センター	0	2																											
合計	14	31																											

		<p>図る。</p> <p>また、研修初期から患者急変時に対応できる能力の習得を支援するため、県内で新規採用された臨床研修医に対する心肺蘇生講習会を開催する。</p>	<p>他院への派遣 (名)</p> <table border="1" data-bbox="996 248 1628 576"> <thead> <tr> <th></th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新宮市立医療センター</td> <td>30</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>南和歌山医療センター</td> <td>34</td> <td>46</td> </tr> <tr> <td>和歌山ろうさい病院</td> <td>28</td> <td>38</td> </tr> <tr> <td>橋本市民病院</td> <td>18</td> <td>23</td> </tr> <tr> <td>日本赤十字社和歌山医療センター</td> <td>25</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>ひだか病院</td> <td>19</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>紀南病院</td> <td>12</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>和歌山生協病院</td> <td>4</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>170</td> <td>215</td> </tr> </tbody> </table> <p>また、平成 31 年 4 月 5 日（金）に、本年度、県内臨床研修病院で採用された臨床研修医（医師・歯科医師）を対象に心肺蘇生講習会を開催し、93 名全員が受講した。（平成 30 年度 115 名受講）</p> <p style="text-align: right;">〈地域医療支援センター〉</p>		30年度	元年度	新宮市立医療センター	30	50	南和歌山医療センター	34	46	和歌山ろうさい病院	28	38	橋本市民病院	18	23	日本赤十字社和歌山医療センター	25	22	ひだか病院	19	22	紀南病院	12	11	和歌山生協病院	4	3	合計	170	215			
	30年度	元年度																																		
新宮市立医療センター	30	50																																		
南和歌山医療センター	34	46																																		
和歌山ろうさい病院	28	38																																		
橋本市民病院	18	23																																		
日本赤十字社和歌山医療センター	25	22																																		
ひだか病院	19	22																																		
紀南病院	12	11																																		
和歌山生協病院	4	3																																		
合計	170	215																																		

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

3 診療に関する目標を達成するための措置	自己評定	【S-A-③-C-D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II-1) (III-28) (IV-2)】
	委員会評定	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II- ) (III- ) (IV- )】

(3) 病院運営に関する目標を達成するための措置

中期計画 (総括評価の場合：中期目標)	年度計画 (総括評価の場合：中期計画)	年度計画の実施状況 (総括評価の場合：中期計画の達成状況)	自己 評価	委員 評価	委員会 評価																								
オ	<p><b>【病院収入の増収】</b> 地域の医療機関との連携を強化し、新規患者の獲得を進めるとともに、効率的な病床運用に努めることにより、病院収入の増収を図る。</p>	<p>連携登録医との更なる病診連携の強化を図るとともに、大阪府南部の医療機関とも連携を強化し、新規患者獲得に努める。また、適切な入院期間を維持した上で病床利用率を下げることなく病床運営に努める。そのことにより一人当たりの単価を高め、増収につなげる。</p> <p>令和2年4月の連携登録医は840名で年々増加している。当院で行われている研修会などのお知らせを行い、当院の特殊な診療についてなどを広報している。また、和歌山での医療連携交流会は参加者も増加し、令和元年度は120名の院内外の医師が連携交流することができた。当院の診療科の現状についても理解していただける機会となり、連携登録医の評価は良かった。泉南泉佐野での医療連携も強化し、大阪府南部の新規患者の獲得に努めた。平成28年度～平成30年度にかけて泉佐野泉南地域からの紹介患者数は742→825→845件と確実に増加している。また、新患枠の増設や連携登録医へのホットラインの周知などの新規外来患者獲得に向けた取組を行ったことで新規外来患者数は前年度比947名の増加となった。</p> <p>病床利用率については2ヶ月毎に各診療科の病床数を見直し、効率的な病床運用に努めたことで、前年度に比べ0.7%上昇した。さらに適切な入院期間を維持したことで患者一人あたりの入院診療単価も前年度に比べ2,122円増加の83,101円となり、入院診療稼働額も19,333百万円から20,075百万円へと742百万円増加した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>30年度 (A)</th> <th>元年度 (B)</th> <th>増減 (B-A)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新外来者患者数(人)</td> <td>23,502</td> <td>24,449</td> <td>947</td> </tr> <tr> <td>病床稼働率(%)</td> <td>87.7</td> <td>88.8</td> <td>1.1</td> </tr> <tr> <td>病床利用率(%)</td> <td>81.8</td> <td>82.5</td> <td>0.7</td> </tr> <tr> <td>入院診療単価(円/人日)</td> <td>80,979</td> <td>83,101</td> <td>2,122</td> </tr> <tr> <td>入院診療稼働額(百万円)</td> <td>19,333</td> <td>20,075</td> <td>742</td> </tr> </tbody> </table>		30年度 (A)	元年度 (B)	増減 (B-A)	新外来者患者数(人)	23,502	24,449	947	病床稼働率(%)	87.7	88.8	1.1	病床利用率(%)	81.8	82.5	0.7	入院診療単価(円/人日)	80,979	83,101	2,122	入院診療稼働額(百万円)	19,333	20,075	742	III	IV	
	30年度 (A)	元年度 (B)	増減 (B-A)																										
新外来者患者数(人)	23,502	24,449	947																										
病床稼働率(%)	87.7	88.8	1.1																										
病床利用率(%)	81.8	82.5	0.7																										
入院診療単価(円/人日)	80,979	83,101	2,122																										
入院診療稼働額(百万円)	19,333	20,075	742																										

			〈患者支援センター〉																						
数値	新外来患者数<附属病院本院> 27,300人(平成35年度)	26,400人	<p>新患枠の拡充やホットラインの周知、医療連携交流会の開催、テレビ・ラジオ等での広報など、新規外来患者獲得に向けた取組を行ったことで、令和元年度は前年度比4.0%増となった。</p> <p>令和元年度実績：24,449人 (平成30年度実績:23,502人)</p> <p><b>【新規外来患者獲得に向けた取組実績等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療連携交流会の開催(令和元年8月、令和2年2月) 連携登録医等参加者 88名</li> <li>・ラジオを活用した広報 放送回数 49回 10テーマで、1テーマを4～5回に分けて放送 ※出演：10診療科等</li> <li>・新患枠の増設(7診療科)</li> <li>・医療連携交流会において、当院各診療科のホットラインを記載した冊子を配布するとともに、別途、郵送でも連携登録医あてホットライン一覧を送付</li> </ul> <p style="text-align: right;">〈関連事項 オ〉</p>																						
	逆紹介率<附属病院本院> 75.0%(平成35年度)	75.0%	<p>76.0%</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H28年</th> <th>H29年</th> <th>H30年</th> <th>R1年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>69.2%</td> <td>75.8%</td> <td>72.3%</td> <td>76.0%</td> </tr> <tr> <td>逆紹介患者数</td> <td>16,344</td> <td>17,730</td> <td>17,137</td> <td>18,485</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">〈関連事項 オ〉</p>					H28年	H29年	H30年	R1年	逆紹介率	69.2%	75.8%	72.3%	76.0%	逆紹介患者数	16,344	17,730	17,137	18,485				
	H28年	H29年	H30年	R1年																					
逆紹介率	69.2%	75.8%	72.3%	76.0%																					
逆紹介患者数	16,344	17,730	17,137	18,485																					
	病床稼働率(利用率)<附属病院本院> 88.7%(83.0%)(平成35年度)	88.7%(83.0%)	<p>令和元年度も引き続き、適正な入院期間を実現できるよう努めつつ、病床稼働率(病床利用率)の向上を図った。令和元年度は大型連休等が多かったが、2ヶ月毎に各診療科の病床数を見直すことにより、効率的な病床運用に努めたことで、昨年度より病床稼働率は1.1%、病床利用率は0.7%上昇した。</p> <p>病床稼働率(利用率)</p> <p>令和元年度 88.8%(82.5%) 平成30年度 87.7%(81.8%)</p> <p style="text-align: right;">〈関連事項 オ〉</p>																						

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

3 診療に関する目標を達成するための措置	自己評定	【S-A-⑧-C-D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II-1) (III-28) (IV-2)】
	委員会評定	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II- ) (III- ) (IV- )】

(3) 病院運営に関する目標を達成するための措置

中期計画 (総括評価の場合：中期目標)		年度計画 (総括評価の場合：中期計画)	年度計画の実施状況 (総括評価の場合：中期計画の達成状況)	自己 評価	委員 評価	委員会 評価
キ	<p>【医薬材料費】</p> <p>医療材料、医薬品等の購入状況や使用状況を分析し、経費の抑制を図る。</p>	<p>価格交渉や医療材料の置き換え等により、経費の抑制を図る。</p>	<p>医薬品については、年間値引き目標値を設定することにより購入経費の削減を図るとともに、全国の大学病院等の購入実績を参考に価格交渉を実施した。また、医療材料については、採用品目の切替を行うことにより、価格の引き下げを図るとともに、医薬品と同様に他の病院の購入実績を参考にした価格交渉を実施した。さらに、後発医薬品の導入に取り組むことにより経費の抑制を図った。これらの価格交渉等により、約1億7千万円の削減となった。</p> <p>さらに、医療材料及び医薬品の使用状況を確認し、適宜在庫数の見直し等を行った。</p> <p>医療用材料検討委員会の開催数 6回 薬事委員会の開催数 11回 医療用材料比率 令和元年度 39.90% (30年度 38.64%) 後発医薬品数量シェア 令和元年度 75.9%</p> <p>〈経理課〉</p>	IV	III	

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

4 国際化に関する目標を達成するための措置	自己評定	【S- <b>㊤</b> -B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II- ) (III-6) (IV- )】
	委員会評定	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II- ) (III- ) (IV- )】

中期計画 (総括評価の場合：中期目標)	年度計画 (総括評価の場合：中期計画)	年度計画の実施状況 (総括評価の場合：中期計画の達成状況)	自己 評価	委員 評価	委員会 評価
ア 【海外研修・海外留学】 助成金の支給や留学報告会の開催等により、海外研修、海外留学を促進するとともに、学生の国際コンペへの参加など研修形態の多様化の取組やアジア等への教職員の派遣を行い、教育、研究、医療の各分野における学生、教職員の資質の向上を図る。	b 若手研究者に対し、海外派遣支援を行う。	海外経験の浅い若手研究者に対し、海外の大学等における先進医療技術の見学や先進的研究活動への参加等の機会を提供するため、学内公募を行い研究活動活性化委員会の審議を経て海外派遣支援を決定した。 申請者 前期0名 後期2名 派遣者 後期2名 支給予定総額 2,000 千円 (但し、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で1名派遣延期している。)  〈研究推進課〉	III	II	

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

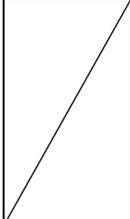
4 国際化に関する目標を達成するための措置	自己評定	【S- <b>Ⓐ</b> -B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II- ) (III-6) (IV- )】
	委員会評定	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II- ) (III- ) (IV- )】

中期計画 (総括評価の場合：中期目標)	年度計画 (総括評価の場合：中期計画)	年度計画の実施状況 (総括評価の場合：中期計画の達成状況)	自己 評価	委員 評価	委員会 評価
イ 【海外からの研究者・学生の受入】 大学機能の活性化を促進するため、日常生活に必要な諸手続きに対する支援など、外国人の研究者、留学生を受け入れやすい支援体制を整備する。	来日前の各種情報提供及び来日後の生活面のサポートなど、外国人の研究者、留学生の受入支援を行う。	来日前に大学や生活に関する情報を提供し、ビザ取得に必要な書類を迅速に発行し支援した。また、来日時に学内及び生活圏の主要施設案内や国際交流ハウスの利用説明を行い、歓迎会を開催して本学の学生によるプレゼンや交流を通じて環境にスムーズに適応できるようサポートした。 〈総務課〉	III	II	

第3 地域貢献に関する目標を達成するための措置

1 教育に関する目標を達成するための措置	自己評定	【S- <b>㊤</b> -B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II- ) (III-5) (IV- )】
	委員会評定	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II- ) (III- ) (IV- )】

中期計画 (総括評価の場合：中期目標)	年度計画 (総括評価の場合：中期計画)	年度計画の実施状況 (総括評価の場合：中期計画の達成状況)	自己 評価	委員 評価	委員会 評価	
エ	<p>【県民医療枠・地域医療枠のキャリア形成】</p> <p>県民医療枠及び地域医療枠で入学した学生が地域医療の魅力や特性を理解し、地域医療に従事する医師の役割及び責任についての認識を深めるため、キャリア形成支援に資する研修等を実施する。</p> <p>また、専門医制度に基づく診療科別に作成したプログラムについて、継続的に見直しを行い、臨床研修医の県内定着に取り組む。</p>	<p>厚労省から発出されたキャリア形成プログラム運用指針に基づき、県が行う県民医療枠及び地域医療枠医師との契約事務に協力していく。</p> <p>県民医療枠・地域医療枠における専門医取得を考慮したキャリア形成プログラム冊子を作成し、臨床研修医の県内定着に取り組む。</p> <p>また、地域医療の魅力や特性を学ぶ機会として、夏季休暇を利用し、県内の保健所・医療機関で研修を実施する。</p> <p>地域医療支援センターに地域医療枠医師を学内助教として配置し、卒後9年間の研修期間終了後に、和歌山県の地域医療を担う医師を育成する。</p>	<p>県民医療枠・地域医療枠のキャリア形成を支援し、専門医取得の参考とするため、院内の全診療科における県民医療枠・地域医療枠の新専門医制度での研修、学位取得を含めたローテーション例等を記載した「令和元年和歌山県立医科大学キャリア形成プログラム」を作成した。</p> <p>本学医学部地域医療枠、近畿大学医学部和歌山県地域枠及び自治医科大学医学部の各1年生～5年生を対象に、令和元年7月～8月に、和歌山県内の保健所やへき地拠点病院・診療所において夏期研修を実施し、50名が参加した。 (平成30年度49名参加)</p> <p>また、本学医学部県民医療枠4年生に、和歌山県内の地域中核病院の病院見学を実施し、28名が参加した。 (平成30年度17名参加)</p> <p>また、令和元年5月20日(月)に、県民医療枠セミナー(本学医学部県民医療枠1～5年生の合計76名が参加)を開催し、県福祉保健部健康局医務課から「和歌山県における災害医療対策」についてご講演いただいた。 (平成30年度95名参加)</p> <p>初期臨床研修修了後3年間地域医療に携わってきた卒後6年目の地域医療枠医師4名を、地域医療支援センター学内助教として採用し、卒後8年目以降に指導医としてへき地拠点病院等で地域医療を担う医師に育成するため、本学での専門研修を開始した。</p> <p style="text-align: right;">(地域医療支援センター)</p>	III	IV	

<p>数値</p>	<p>採用臨床研修医の研修修了 後県内定着率 修了者数の 89.1% (平成 35 年度)</p>	<p>85.3%</p>	<p>当院の初期臨床研修医 2 年目 73 名 内、3 年目県内で後期研修 66 名 3 年目県外で後期研修 7 名</p> <p>県内定着率 90.4% (平成 30 年度 83.6%)</p> <p>〈関連事項 エ〉</p>			
-----------	---	--------------	--	---	--	--

第3 地域貢献に関する目標を達成するための措置

2 研究に関する目標を達成するための措置	自己評定	【S-A-B-③-D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II-1) (III-4) (IV- )】
	委員会評定	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II- ) (III- ) (IV- )】

中期計画 (総括評価の場合：中期目標)	年度計画 (総括評価の場合：中期計画)	年度計画の実施状況 (総括評価の場合：中期計画の達成状況)	自己 評価	委員 評価	委員会 評価																													
<p>ア</p> <p>【地域の保健医療課題解決のための研究】</p> <p>がんや認知症に関する研究をはじめとして、本県における医療水準の向上や県民の健康増進、疾病予防等に資する各種研究を推進する。</p>	<p>先端医学研究所を核に先進的な研究を行うとともに、臨床研究センターを活用しながら、質の高い臨床研究を推進する。</p>	<p>先端医学研究所に、高齢化に伴い増加が予想される疾病であるがん、感染症、循環器疾患などの予防、診断、原因解明を行う新設部門として、「分子病態解析研究部」を令和2年1月に開設し、研究実施体制の整備を進めた。</p> <p>〈再掲〉 〈研究推進課〉</p> <p>臨床研究センターにおいてプロトコル作成、データマネジメント、統計解析のほか、モニタリングや監査を通じた品質管理、研究実施のためのセミナー開催等の総合的な研究支援を行った。</p> <p>また、兼務医師を通じた研究課題の掘り起こしを実施するとともに、14診療科36件の新規臨床研究に関与し、5診療科6件の特定臨床研究の開始を支援した。</p> <p>各種セミナー実施実績（外部参加者含む）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">30年度</th> <th colspan="2">元年度</th> </tr> <tr> <th>開催回数</th> <th>参加人数</th> <th>開催回数</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>臨床研究セミナー</td> <td>8</td> <td>1099</td> <td>13</td> <td>1519</td> </tr> <tr> <td>医学統計セミナー</td> <td>5</td> <td>126</td> <td>9</td> <td>202</td> </tr> <tr> <td>研究者向けセミナー</td> <td>6</td> <td>453</td> <td>4</td> <td>306</td> </tr> <tr> <td>臨床研究審査委員会委員等に対するセミナー</td> <td>3</td> <td>40</td> <td>2</td> <td>32</td> </tr> </tbody> </table> <p>〈再掲〉 〈臨床研究センター〉</p>		30年度		元年度		開催回数	参加人数	開催回数	参加人数	臨床研究セミナー	8	1099	13	1519	医学統計セミナー	5	126	9	202	研究者向けセミナー	6	453	4	306	臨床研究審査委員会委員等に対するセミナー	3	40	2	32	III	IV	
	30年度			元年度																														
	開催回数	参加人数	開催回数	参加人数																														
臨床研究セミナー	8	1099	13	1519																														
医学統計セミナー	5	126	9	202																														
研究者向けセミナー	6	453	4	306																														
臨床研究審査委員会委員等に対するセミナー	3	40	2	32																														

第3 地域貢献に関する目標を達成するための措置

3 診療に関する目標を達成するための措置	自己評定	【S- <u>㊤</u> -B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II- ) (III-13) (IV- )】
	委員会評定	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II- ) (III- ) (IV- )】

中期計画 (総括評価の場合：中期目標)	年度計画 (総括評価の場合：中期計画)	年度計画の実施状況 (総括評価の場合：中期計画の達成状況)	自己 評価	委員 評価	委員会 評価
<p>ア 【地域医療水準の向上】</p> <p>地域医療の充実のため、医師の適正配置に努めるとともに、県保健医療計画における5疾病（がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病、精神疾患）について、高度で先進的な医療を提供するとともに、県内医療機関と連携し、県内の医療水準の向上に寄与する。</p> <p>また、疾病ごとに以下の取組を進める。</p> <p>がん：最新の医療機器の活用等による、高度で先進的ながん診療</p> <p>脳卒中：血管内治療の積極的導入</p> <p>急性心筋梗塞：低侵襲治療の積極的導入、24時間体制での緊急手術受入</p> <p>糖尿病：糖尿病性腎症重症化予防、身体合併症患者の治</p>	<p>a 本県の中核的な医療機関として、以下の5疾病の取組を進めるとともに、地域の医療機関と連携し、医療水準の向上に努める。</p> <p>がん：先端医療機器を活用した多様ながんへの対応及びがんゲノム医療等高度で先進的ながん診療を実施する。</p> <p>脳卒中：脳血管内治療の積極的導入を図る。</p> <p>急性心筋梗塞：低侵襲治療の積極的導入を図る。</p> <p>糖尿病：定期的な合併症検索により糖尿病による合併症の発生と重症化予防を推進する。</p> <p>精神疾患：うつ病の診療の充実を目指し、重症者の入院治療、中等症・軽症者の外来治療、寛解者のデイケア形式による復職支援プ</p>	<p>脳卒中：脳卒中の急性期医療では、脳動脈瘤に対してはコイル塞栓術を57例、脳梗塞に対する機械的血栓回収術を42例と脳血管内治療を積極的に行い、脳卒中治療全体に占める血管内治療の割合が増加し80%以上を占めた。</p> <p>また、11月1日に専門的で高度な脳卒中医療を迅速かつ組織的に提供するとともに、地域医療機関とも連携し、和歌山県全体の脳卒中診療の充実・発展を図るため「脳卒中センター」を設置した。</p> <p>急性心筋梗塞：急性心筋梗塞に対する24時間体制での緊急手術受け入れを行った。一方、急性心筋梗塞に対する低侵襲手術の導入に関しては、先ず待機的な虚血性心疾患に対する低侵襲治療の導入を行った。待機症例で低侵襲手術の経験を積むことで、将来的には急性心筋梗塞の低侵襲手術の導入を目指していく。</p> <p>糖尿病：腎症・神経障害に関しては医師・看護師・栄養士が連携を取りながら病態の把握と進展予防を適切に行った。網膜症評価は当院・地域の眼科医師と連携を行いながら定期評価・進展予防に努めた。</p> <p>精神疾患：令和元年6月に保険収載された反復経頭蓋磁気刺激治療の早期の開始を目標に、実施施設要件を満たすための関係部署と調整を図るとともに、全医師が治療者資格の取得に必要な実技講習会に参加するなど、令和2年度内の治療開始を目指し、準備を進めている。</p> <p>〈医事課〉</p> <p>がん：平成26年に拡充した手術室、内視鏡室において高度で先進的な手術治療に取り組んでいる。特に高度で低侵</p>	III	IV	

	<p>療、定期的な合併症検索 精神疾患：うつ病に関する急性期からリハビリテーションまで充実した診療体制</p>	<p>プログラムを継続するとともに、新たに保険収載が予定されている反復経頭蓋磁気刺激治療の開始を目指す。</p>	<p>襲な手術が可能になる手術支援ロボット「ダヴィンチ」の最新機種を平成 29 年 12 月に導入し、関西で初となる 2 台体制により、保険適用の前立腺全摘除術や胃切除術のほか、膀胱、直腸等についてがんの外科治療を実施している。</p> <p>また、令和 2 年度の診療報酬改定に伴い、肺、食道、十二指腸等の治療も保険適用となるため、さらに症例数を増やしているところである。</p> <p>平成 30 年 10 月には、がん遺伝子検査外来を開設し、自費診療による遺伝子パネル検査を実施してきたが、令和 2 年 1 月から新たに保険診療に対応したパネル検査 2 品目についても検査を実施している。</p> <p>また、全国に先駆けて附属病院に膵がんに特化した膵がんセンターを開設し、治療、研究、人材育成及び患者支援等を関係部署が一体となり推進する体制を整えた。また、新たに小児がん連携病院の指定を受け、近畿ブロック小児がん医療提供体制協議会の一員として拠点病院との連携を強化するなど、各がん種において診療体制の強化を図っている。</p> <p style="text-align: right;">〈経理課〉</p>			
--	---	--	---	--	--	--

第3 地域貢献に関する目標を達成するための措置

3 診療に関する目標を達成するための措置	自己評定	【S- <b>㊤</b> -B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II- ) (III-13) (IV- )】
	委員会評定	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II- ) (III- ) (IV- )】

中期計画 (総括評価の場合：中期目標)	年度計画 (総括評価の場合：中期計画)	年度計画の実施状況 (総括評価の場合：中期計画の達成状況)	自己 評価	委員 評価	委員会 評価												
<p>カ 【遠隔医療支援システム等】</p> <p>県及び地域の医療機関と連携しながら、テレビ会議システムを活用した遠隔外来や遠隔カンファレンスを推進するとともに、ICTを活用した遠隔救急支援システムの推進による救急医療機関間の連携強化を図る。</p> <p>また、青洲リンクの更なる活用を図り、診療情報の共有による医療機関の連携を推進する。</p>	<p>遠隔救急支援システムを活用し、モバイル端末を活用した3次救急医療機関である和歌山県立医科大学附属病院と公立の2次救急医療機関等が協力し、救急患者の受入を円滑に行う。</p> <p>また、青洲リンクの更なる活用を図り、診療情報の共有による医療機関の連携を推進する。</p>	<p>平成 29・30 年度かけて、公立の2次救急医療機関等 13 病院に、汎用画像診断装置用プログラム「Join」を活用した遠隔救急支援システムを導入し、令和元年度より本格運用を開始した。システムの導入により、患者画像を事前に共有することで、救急患者の手術等の受入体制を迅速に整えることが可能となり、患者の処置開始を60分以上短縮できた事例や、不要不急な搬送を防止するなど、患者の救命や医師の負担軽減につながる事例が報告された。</p> <p>また、令和元年度より、医師の個人端末においても2次救急医療機関等13病院の画像を確認できる機能を付加することにより、救急患者の受入体制の一層の強化を図った。</p> <p><b>【実績】</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>30 年度</th> <th>元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>遠隔外来</td> <td>67</td> <td>43</td> </tr> <tr> <td>講義の配信等</td> <td>52</td> <td>47</td> </tr> <tr> <td>遠隔救急 (iPad)</td> <td>9</td> <td>64</td> </tr> </tbody> </table> <p>〈地域医療支援センター〉</p> <p>青洲リンクの参加について、和歌山県医師会、那賀医師会、海南医師会、日高医師会、その他3病院に青洲リンクの説明会を実施した。</p> <p>〈医療情報部〉</p>		30 年度	元年度	遠隔外来	67	43	講義の配信等	52	47	遠隔救急 (iPad)	9	64	III	IV	
	30 年度	元年度															
遠隔外来	67	43															
講義の配信等	52	47															
遠隔救急 (iPad)	9	64															

第6 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための措置

1 評価の充実に係る目標を達成するための措置	自己評定	【S- <u>Ⓐ</u> -B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II- ) (III-3) (IV- )】
	委員会評定	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II- ) (III- ) (IV- )】

中期計画 (総括評価の場合：中期目標)	年度計画 (総括評価の場合：中期計画)	年度計画の実施状況 (総括評価の場合：中期計画の達成状況)	自己 評価	委員 評価	委員会 評価
ア	<p>【自己点検・第三者評価】</p> <p>自己点検・評価を行うとともに、第三者評価については、これまでの指摘事項に対する改善の進捗管理を徹底する一方、新たな受審にも計画的に対応することにより、法人業務の質の向上を図る。</p> <p>地方独立行政法人法に基づく法人評価により示された結果を学内にフィードバックし、年度計画や業務運営の改善等に適切に反映させ、進捗管理者を中心に進捗管理を行うとともに、その反映状況を公表する。</p> <p>(公財) 大学基準協会による認証評価(平成27年度)時の努力課題について、改善状況を報告する。</p> <p>また、(公財) 日本医療機能評価機構の病院機能評価3rdG. Ver2.0 取得に向けて受審した本審査の指摘事項への対応を行う。</p> <p>平成30年3月に本学が認定を受けた医学教育分野別評価において、(一社) 日本医学教育評価機構(JACME)から「改善が望まれる点」として評価された項目について、改善状</p>	<p>平成30事業年度における本学の業務実績に関する自己点検・評価結果については、本学ホームページにおいて「平成30事業年度における業務実績報告書」として公表した。</p> <p>この自己点検・評価結果に対する和歌山県公立大学法人評価委員会(県評価委員会)の評価結果については、和歌山県ホームページにおいて「平成30事業年度の業務実績に関する評価結果」として公表されている。</p> <p>また、昨年度の和歌山県公立大学法人評価委員会(県評価委員会)による「平成29事業年度の業務実績に関する評価結果」及び「第二期中期目標期間(平成24から29年度)の業務実績に関する評価結果」で指摘等あった事項に対する反映状況を本学ホームページにおいて公表した。</p> <p>県評価委員会の評価結果及び提言については、本学の教育研究審議会、経営審議会及び理事会に報告を行うとともに、学内所管部門にフィードバックし、進捗管理者を中心に対応方策等の検討を行った。これらのうち、令和元年度において対応可能なものについては、迅速に対応するとともに、必要に応じ令和2年度計画に盛り込んだ。</p> <p>(公財) 大学基準協会による認証評価時の努力課題について、改善状況を取りまとめ、7月に同協会に報告した。</p> <p>(経営企画課)</p> <p>(公財) 日本医療機能評価機構による本審査で指摘された6項目のうち、病棟医療機器の定期点検と抗がん剤調製時の曝露対策の2項目については、2月時点で改善を行い、4月時点でB評価を得た。</p> <p>また、残りの4項目(患者が理解できる説明、プライバ</p>	III	IV	

		況を報告する。	<p>シーの適切な保護、倫理的課題への取組み、職員への適切な教育)についても継続して改善を行い、11月6日に確認審査を受け、令和2年1月時点でB評価を得た。</p> <p style="text-align: right;">〈経理課〉</p> <p>(一社)日本医学教育評価機構による評価報告書により指摘された事項について、令和元年7月29日に開催した医学教育分野別評価部会、および令和元年8月27日に開催した教育研究審議会において協議した上で、(一社)日本医学教育評価機構に対して本学での改善状況を報告した。</p> <p style="text-align: right;">〈学生課〉</p>			
--	--	---------	--	--	--	--

第6 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための措置

2 情報公開及び情報発信に関する目標を達成するための措置	自己評価	【S- <u>㉠</u> -B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II- ) (III-2) (IV- )】
	委員会評価	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II- ) (III- ) (IV- )】

中期計画 (総括評価の場合：中期目標)	年度計画 (総括評価の場合：中期計画)	年度計画の実施状況 (総括評価の場合：中期計画の達成状況)	自己 評価	委員 評価	委員会 評価
ア 【情報公開】 本学の取組や法人運営の状況について、ホームページへの掲載や報道機関への発表等を通じて積極的に公開することにより、県民への説明責任を果たす。	県民に本学の取組等を身近に理解してもらうようにするため、大学の取組、財務・業務、審議会等の内容を報道機関への発表や、ホームページ等で積極的に公開する。	大学の取組を報道機関に発表するとともに、財務・業務の状況、経営審議会・教育研究審議会等の内容を公表し、ホームページを随時更新して最新の情報を提供することにより県民に本学の取組を積極的に公開している。 〈総務課〉	III	IV	

第7 その他業務運営に関する目標を達成するための措置

4 基本的人権の尊重に関する目標を達成するための措置	自己評定	【S- <u>㉔</u> -B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II- ) (III-2) (IV- )】
	委員会評定	【S-A-B-C-D】	【年度計画の実施状況：(I- ) (II- ) (III- ) (IV- )】

中期計画 (総括評価の場合：中期目標)	年度計画 (総括評価の場合：中期計画)	年度計画の実施状況 (総括評価の場合：中期計画の達成状況)	自己 評価	委員 評価	委員会 評価	
ア	<p>【人権教育】</p> <p>教育、研究、診療の場において、人権を尊重し、人格を重んじる教職員を育成するため、人権意識を高める研修を実施する。</p>	<p>現場のニーズを踏まえた研修計画を立案し、研究倫理や医療従事者等の人権問題について、正しい知識を再確認させ、人権意識の醸成を推進する。</p>	<p>ハラスメントをテーマとして、全職員を対象に「全学人権・同和研修」を計8回にわたり実施。講師は、奈良県立医科大学に教員として勤めた経験を有し、ハラスメント問題に取り組むNPO法人の代表である御興久美子氏に依頼した。</p> <p>講演では研究分野や医療現場でのハラスメントについて、アカデミック・ハラスメントやパワー・ハラスメントを中心に、具体的な事例を数多く紹介しながらその問題点について解説がなされた。実施後のアンケートにおいても「自分の言動を振り返るきっかけとなった」「自身の職場でハラスメントが発生していないかと考えさせられた」などの感想が多かった。</p> <p>その後、1月22日に未受講者が属する所属長あてに通知を发出し、未受講者への受講指導を依頼するとともに、受講率が低い所属に対しては個別に電話連絡するなどして受講率の向上に努めた。その結果、令和元年度末には受講対象者名2,409名中、2,396名が受講を終了し、受講率は99.5%となった。(30年度受講率：99.8%)</p> <p>受講後のアンケート結果(抜粋)は次のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修の満足度 有意義(65%) 普通(35%) 不満足(1%)</li> <li>・研修の難易度 ちょうど良い(93%) 易しい(2%) 難しい(5%)</li> <li>・理解の深まり 深まった(92%) どちらともいえない(6%) 深まらなかった(2%)</li> <li>・今後の業務への活用 大いに活かせる(42%) いくらか活かせる(57%)</li> </ul>	III	IV	

			<p>ほとんど活かさない（1%）</p> <p>上記のアンケート結果から、人権問題について、正しい知識を再確認し、人権意識の醸成を推進するとの目標は概ね達成できたと思われる。</p> <p><b>【研修概要】</b></p> <p>テーマ：医科大学、附属病院におけるハラスメントについて</p> <p>講師：NPOアカデミック・ハラスメントをなくすネットワーク代表理事 御輿久美子氏</p> <p>実施日：令和元年10月2日（水）講義2回  11月27日（水）DVD上映3回  11月28日（木）DVD上映3回</p> <p>※併せて個別にDVD視聴による研修を実施  （総務課）</p>			
--	--	--	--	--	--	--